夕刊 磐城新聞
十二月十九日發行
定價 一ヶ月 五十五錢(郵稅共 六拾五錢)
廣告料金 普通欄 金六拾錢 特輯欄 金九拾錢 五號十二字詰一行一回(場所指定一行增)
編輯印刷兼發行人 柏木 福島縣石城郡平町 町十六番地
發行所 磐城新聞 合名會社
登録交換電略(タイライワキ) 平局私書函第十二號 電話五六四番
日曜祭日翌日休刊

在京の友より

寒風生

二 ×

何を言つちよるかよう解らん、推察で書く、小生達者安心しろ、現在學籍日大專門部()科本科一年、帽子なしの登校姿を察せよ。名月にそゞろ故郷の昔、旅愁を感ずる、人去り時過ぎ山河すら變ず再び郷士をふまんとも欲せずとも小生人間なり、小生彼岸に來て彼岸フヂヤマがとても美しくはつきり見えるやうになつた秋の虫を聞いて居ると昔の人のマボロシ、去る者は日々に疎しとかすまなく思ふ君の母の姿今に髣髴たり如何せしか、去年悲しく思はれるA、(Kの弟なり)に言つてくれ『家に内緒で家の色々の樣子報せる樣に』と又書く……十月一日夜

×

体が惡いんだつてな、なんなら△△へでも行つて半年も生活して見たらどうだ何?○科入學が解せんと、そうかも知れん、しかし荒波と年と頭と、兎に角卒業までの事なんか考へては居ない、でももすこし學生生活に浸つて見たかつたし、實を言ふと仕事がありや明日からでもよすかも知れん十一圓の月謝、なんのかんので十五圓、それに本一ッ買ふわけに行かず、此れから寒くなるに防寒具さへ一ッとして買へない、今日俺はワイフからの金で教科書を一冊やつと買つたほどだ。ひよつとするとカネモチ娘への非常手段を取るかも知れん、俺の思想は變つて來て居る、好きな劍道さへちつとも出來ずに居るし、それに學校では空腹にねむい朝三時半に起きて二時間走つて歸ると學校へ三十分の徒歩と二十分の電車、終つて歸ると直ぐ夕刊、ねるのが十時半すぎすくなくとも十一時だ、昨日は講義を聞きながら一寸昔の事を思ひ出したよ、家に居る時の樣な洗濯物ではないし、尤も今は殆んど洗濯はワイフがやつてくれるが、彼氏だつて苦勞してるし、俺は極端な虛無主義へ自己本位にそして!でも昔の樣な主義をげきたいする力は拔けて居る、要するに俺は都會化されたのかも知れぬ、檢査が眼前にあるし……俺はひよつとすると俺は死へ!でもまあなるか樣になるさ、勉强だつて殆んど出來ないし、今むし齒で苦しんでゐる。又書く生活はとにかく苦しいしかし今更歸るづう/\しさもない……十月十日

×

多謝、何を考へてそんな職業始めたんだ。寒くなつたね、もうぢき師走だ、十二月の十三日が小生の誕生日だ、×マスが來る、新年が來る。何かプレゼントをと思つたが雜誌の月おくれを一冊『三十三人集』を二十錢で求めた。志あらば送料だけでも返して吳れ、貧乏者いぢめの季節が來た、オーバもないし、ズボン一ッ新調する餘裕もない有樣だ

女人集

鹽野梅子

○この夜ふけとみに靜けきに隣家より麻雀の牌をまぜる音すれ
○ひたむきに衣縫ふ手さき汗あえて雨降る今宵はいたく蒸しつる
○春風はひねもす吹きて巷べのウヰンドウのガラス埃にくもれる
○既婚の友らがあげつらふ結婚觀も今のわれには遠き思ひす
○師は今は歌にかまけてあけくれをもの思ひなく在りと告らせる

潮聲硯靜抄帳

十一月集 赤羽松堂選

時事

冬に入りて匡救工事始まれり
流れゆく落葉の底や谿の水 眞砂常
無花果の落葉かさつく築地哉
雨止みて霧となりたる夜明かな 翠山
山肌に風の冷たき落葉徑 竹竿
帆をおろしもどる漁船や夕時雨 枯萍
はてもなく汽車道ひかる今朝の霜 花里

社會の今日

12月20日 △新後撰和歌集成る(嘉元元)△新律綱領を頒つ(明治三)△米國より組立家屋來る(大正一二)△小橋前文相以下判決(昭和五)△我飛行隊海倫の馬軍擊滅す(同六)

○

看護婦の晝寢のいびき冬襖 貝城

年を經てやうやく澁い色を出した、竹林の竹が伐られるよ今 花岡謙二

新門と女房

柳町陽二

(四)

新門身内に人がないわけぢやないんだが、この仕事は辰五郎が引受けなけりや男が立たないんだから——それにこんな時世になつて見りやこの先將軍樣への御奉公があるかどうかも分かりやしない。言はば最後の御恩返しに、氣遲れがして逃げを張るなんて卑怯だよ妾それが口惜しいんだよ

兒分達は女房の意外な權幕に驚いて默つてしまつた感極まつた女房はたゞむせび泣くばかりであつた。それでも辰五郎は何とも言はなかつた

が——心の中では何時の間にか湧き出した泉の樣な元氣が、やれるかも知れないと敎へた

女房は突つ伏して泣いてゐた前身をガバと起すと、何か決心したらしく

——親分、親分はほんとにこのまゝにして置くのかどうかきつぱり返事しておくれ、と聞いた。が——

辰五郎は無言。然し、辰五郎の目と視線がぴつたり合つた時、女房はふッとした

——姐御、今もみんなと相談したんだが、若し親分さへウンと言つて吳れりや俺達の手で見事やつて見ようと思ひますが、一寸その聞いて見て貰へまいかと何か額を集めて、ひそ/\話をしてゐた一人が膝を乘り出して言つた。兒分達の顏は一樣に緊張してゐた

——みんな、靜にしてくれ

兒分達は女房の方から辰五郎の方へ視線をうつした

——俺だつて今度の御用かどんなに大切であるかどんなに危險な事であるかぐれいはよく知つてゐる。それに將軍樣の御難儀だつて誰よりも一番俺が口惜しいだがこの病氣では若し間違つて官軍につかまつても言譯の立たねい中に死んぢやそれこそ將軍樣の大迷惑と思つてゐたが、何だがうまくやれそうだ。俺はそんな氣がしてなんねい。然もまかり間違へば幕府や將軍樣の罪をしよはなげればならない大仕事だ、だから生きて歸る氣ぢや出來つこない仕事なんだ

講談 幕末神風組

(81) 土生太郎作 高根秀浩書

殺陣往來(三)

常陸屋佐吉の乾兒が既に危いと見えた所へ、すつくと姿を現はした偉丈夫こそは、榎本派の闘將淺野隼人である。續いて中村の顏が

是れで一切の事情は判明した譯である。先刻轉げるやうに中村が驅け出したのは淺野隼人を呼びに行つたものと見える

流石にそれが強敵淺野と知ると御木本は尠からず狼狽したらしい。が、そんな事は色にも現はさず、がつちりと構へ込んでゐる

『誰かと存じたらこれは御木本氏か、何時ぞやは失禮。時に此の若造、見れば町方のものらしい、如何なる仕儀かは存せぬが今日のところは一應考へてやつては下さるまいか』

淺野は極めて穩かな調子に出た

『いや、手前こそ失禮……で此の若者だが、これはかりは貴殿のお言葉乍ら、いやさ貴殿のお言葉故に尙更勘辨成り申さぬ!』

『何と……』

『お言葉にそふことは出來兼ねると申すのでござる』

『成程…、一應は御尤もとは存ずるが、今日は外の日とは違ふ、それにこゝは境内でござるぞ、神前を汚すは申譯ない。ならぬところでもあらうが其處をまげて御考へを願ふ、この通りだお願ひ申す』

淺野は手を揃へ頭を下げて頼む、だがそれは却つて御木本を得意然とさせるだけであつた。御木本には淺野のさうした態度をよく呑み込む事が出來なかつたのであらう

『折角だが、貴殿の御申出はキッパリとお斷り申す』

冷然といふ

『成る程、しかしこれほど拙者がお願ひ申してもか』

『くどい!』

その憎々しい態度

『先生!構はねえから殺つちまつておくんなせね』

『其奴のどてッ腹へ風穴を明けてやつておくんなせね!』

御木本の傲慢な態度に圖りの江戸ッ兒達が極度に興奮して、こんなことを口々に叫んだ

『では是非に及ばぬ、この上は刀にかけてもキットお貰ひ申す外はない』

水のやうに靜かな言葉だそして相手をぢつと見詰める

御木本は思はずたぢ/\と氣壓を感じ、心持ち身を反らせたがそれを固く抑へて、だがかうなつてはいけない、始めから氣合負けをしてゐるのだ

(まづいな——)

とは思つたが今更身をひくにもならず、只猪突する外はないのだ

『何をぐず/\してゐるんでえ、先生構はねから一息にばつさりやつちまつておくんなせえ……』

氣の短い江戸ッ兒は傍らからせき立てる

『しかし……』

淺野は身動きもせず相手を見詰めたまゝでいふ

『……此處は神前ぢや、どうあつても此處をけがすには忍びない、あそこへ行かう、あの松林が格好の試合場だ……それに絶ねて久しい一騎打ちだ、それには屆竟の場所である

と、淺野が云ひ乍ら彼方の松林を指さしたその儘な際を狙つて

『エイッ!』

何時の間に刀と持ち替へたのか御木本の棒がうなりを生じて飛んだ

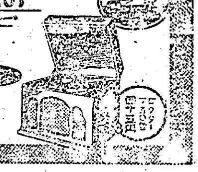
『あッ!』

閃りの人々が思はず叫んだ程であるが、何とその餅かゞ淺野は美事体をかはしてゐる

『ま、そのやうにあはてなさるには及ばぬ』

淺野は落ちつき拂つたものである

七五三御祝用 子供服とオーバー賣出し
お坊ちやま。お孃ちやまの樂しい嬉しいお宮參りに可愛らしいなかやの子供服とオーバーを御撰擇のほどを……
なかや洋服店 平二 電203

お正月が近づきました
ビクターマーク
特製レコード付優秀蓄音器
賣出し

特約店 金光堂時計店

美味で評判の イワキサロン 平町電三五二

高久病院 院長 高久忠 平町田町電五一三

森下の歳末年始大特賣出し
期間 八年十二月廿二日ヨリ九年一月四日マデ
此際五十錢御買上毎に…… 御土産菓子入大袋呈上……
桐羽子板 十五錢
五吋ゴムマリ網入 十八錢
百人首一組 十五錢ヨリ
フートボール六吋 十錢
(其他何品ニヨラズ二割引)
森下玩具店 平町一丁目 電話三九七番

忘年會 新年會
◈萬事御希望に副ふやう勉强して御奉仕致します
◈御通知下されば當方から御相談に參上仕ります
平町紺屋町 住吉屋本店 電話一五九番

歳暮福引大賣出し 十二月十七日より七日間
御贈答好適品充實 「歳暮特別奉仕品」山積
お買上金貳圓毎に福引券呈上 景品
特別貳拾圓商品券 一等丸帶、二等銘仙、三等反物、外…風呂敷、御手富貴
七五三祝着 尺三帶、錦紗友仙、御紋附、富士絹友仙、モス友仙
婚禮衣裳 丸帶、江戸褄、御召、袴地、御紋附 特賣
御贈答には受けて重寶贈るに便利 商品券
三井呉服店 平 電話三八番

吸入用酸素 純度99%
度量衡 ハカリ マス モノサシ
計量器 体温器 寒暖計
◎秤ノ取緒・垂糸・修覆致シマス
關内藥局 電話四〇番

日本に唯一つ 魂の這入つた 東京工場聯盟の自轉車
指定販賣所 フタバ商會 平。新川町。橋際

淋藥界の最高權威 無效返金(二日間服効なき時は藥引替に全部返金す)
りん病 別府淋藥
一週間…赤箱—金五圓 黑箱—金參圓
世界の名湯別府温泉で名高い。岩里家の家傳祕藥は男女血ウミ、コシケ、淋病消渴に奇績的效果ありどんな頑固な痳疾でも短時日に根治が出來且つ再發することなく注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名藥別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。
別府皮膚藥 金三十錢 金五十錢
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精に各病醫院及最高學府の處方劑集め大成せる皮膚病特効藥であります、たむし、いんきん、みつむし、なます、しらくも等其他皮膚病に卓効あり。
九州別府市鶴乃園 岩里天然堂
代理店 平町三丁目北裏通り 渡邊ひと
(特約店募集)

社員招聘
一、集金販賣係 五名 經驗の有無に不拘小學卒業以上身元保證人アル廿二歲以上五十歲迄
一、見習社員 二名 小學卒業十六歲以上の男子 但シ會社住込ミ勤務
シンガー裁縫機械會社支店 平町田町通り

外科全般 內科 小兒科
醫學博士 渡部義夫
女醫 渡部きい
平町田町大通り(電話二七七)
渡部外科 (入院應需)

專門 一般內科
內科ハ何デモ診療致シマス 呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五(電話一八一番)
川井內科診療所 醫學士 川井重之 女醫 川井安子

師團長宮を迎へ奉り 光榮に輝く石城地方

廿一日より三日間の御行程

東久邇師團長宮殿下には既報の如く倉茂參謀南部武官隨行愈々明後廿一日午後零時五十六分着御來平、左記御豫定により三日間に亘つて産業、舊蹟其他具さに地方の現況を御視察遊ばされる事となつた

(二十一日)平驛御着午後零時五十六分、賜謁、自動車で午後一時御發、淺野記念館へ午後一時十五分菅原所長より磐炭狀況御聽取約二十分間、同所御發午後一時三十五分、綴坑御着午後一時四十五分、坑内御視察四十分間同所御發同二時四十五分白水阿彌陀堂御着同二時五十五分、同所御視察午後三時十分、平町住吉屋本店御着午後三時三十五分

(二十二日)植田方部で行ふ第二十九聯隊現地戰術御視察

(二十三日)旅館御發自動車で午前九時、小名濱御着同九時四十分、築港御視察二十分間、同事務所で概要御聽取、同工事場附近の現地御視察、同所御發午前十時、豐間燈台御着同十時二十五分、同所御視察二十分間、同所御往復御徒歩約四十分間同所御發午前十一時二十五分、平町片倉製糸場御着、正午同所で御晝食一時間、工場御視察二十分間、平驛御着一時五十分同驛發午後一時五十分

特産メロン獻上

平町の奉迎準備進む

奉迎準備の爲平町役場では今十九日午前十時から打合せ會を開き學校外各關係筋と共に協議の上明廿日水谷兵事課長の來平を俟ち具体的準備を決定する事になつた、尚町としてはメロンを獻上すべく目下各方面に交渉中である

有資格者ホームへ

師團長宮平驛御着

師團長宮平驛御着の際は有資格者百名かぎりホームに堵列奉迎申し上ぐる事を許された

激越 辯論大會に 優雅 音樂部の合流

明二十日平商の催し

既報―平商校の辯論部大會は明二十日午前十一時から同校講堂に催されるが既報プログラムの外左記音樂部の合同出演あり盛會を豫想されてゐる

二部合奏『元祿花見踊』四部合奏『オリエンタル、ダンス』五部合奏『越後獅子』三部合奏『丘を越へて』四部合奏『オリエンタル、キヤラバン』獨奏『題未定』四年梅津

奉安庫地鎮祭

平商、第一、第二校の奉安庫は各校千二百圓で平町佐藤福太郎氏に落札したので明廿日午後一時より關係者列席の下に地鎮祭を行ふと

。。。。。通話區域擴張

平局では一昨十七日より左の如く通話區域の擴張をなした

群馬縣赤岩局六十錢、千葉縣諸持局七十錢、小南局七十錢

平税務署ボーナス

平税務署のボーナスは來る二十八日頃支給されるが唯野署長は別として大体昨年と同じく平均十割此の總額千五、六百圓であらうと観られて居る

第一試筆題

八日より小展覽會

第一校の明春試筆題はこの程左の如く決定した、尚右試筆は二日各自宅に於て書き上げ八日より各教室に小展覽會を催すと

尋一『フジノヤマ』二『太平のはる』三『新年を祝ふ』四『孝は百行の本』五『東風萬里太平春』六『春入千門多瑞色』高一『初日今將上曉天千里紅』『けさ見じは山もうるみて久かたの天のそらより春はきにけり』二『春入梅花香氣動又斟椒酒祝新年』

飯場を設けて 狩出人夫を收容

勞力擴底に惱む改修工事

工費四十五萬圓二ヶ年間繼續匡救事業として去る六月着工した玉川村藤原川改修工事は目下同村小泉地内延長一里の工事を急いで居るが人夫不足から過般來各方面に亘り募集中であつたが農繁季の過ぎた現在でも二百五十名位で所要人夫の半數にも滿たない狀態なので今度は同所附近に飯場を設け他方面から狩り出すべく一昨十七日縣に電話して直に實施する事になつたと

運轉事故防止標語

平鐵從業員から募集

過般其筋から無事故を表彰された平驛では今後益々その成績向上を圖る爲此程來從業員から十戒十則の章句を募集中であつたが左記優秀作品が入選した

(た)ダロウ、ヨカロウの惡習生むな
(い)今一度見直す作業に事故なし
(ら)樂觀するな隙が來る
(ゑ)遠慮はいらぬ無事故完成
(う)運轉作業に隙を作るな與へるな
(ん)んと頑張りや事故は逃ぐ
(て)手配用意に精神こめて
(ん)んと精を出す奉仕觀念
(ほ)骨を惜むな名を惜め
(う)運轉事故は身の恥驛の恥
(平)平素規程技術の研究をなすこと
(驛)驛務成績の優劣は繫つて運轉事故の有無にありと知るべし
(運)運轉作業向上は規定を嚴格に遵守するにあり
(轉)轉轍信號は總べて定位を保持せよ
(事)事前に職責の重大さを自省せよ
(故)故意怠慢の素因は憶測作業の遂行にあり
(防)防備堅くば事故魔は退散
(止)止めた車輛は限界内にしかも轉動防止をおこたるな

昭和八年の回顧

(九月の卷)

(一日)關東大震記念日。各學校始業。縣下小學校長並に教員異動、高橋大野は大野第二、曾我平第一、荒川大野第二は退職。神谷農倉の白米共販 (二日)箕輪の選擧違反十二名に略式罰金。盂蘭盆始まる、今日十三日(三日)禿頭で宮川床を馱捏ねる男龍田の大河内朝治。内郷の六犯男伊澤粂二郎(四五)出所早々惡事を働き取調 (四日)久保町踏切で内郷の自動車列車に横突。平驛今日の乘降平日の三倍。盆の十五日。仙臺鑛監局管内鑛山對抗野球に磐炭荒川鑛業を破り東北を制覇、同庭球戰に入山快勝(五日)内郷鬼ヶ澤貯水池に溺死体、同村の根本義雄(二七)。鎌田の佐藤靜(三三)實家の送り盆に義弟と喧嘩 (六日)湯本町觀音山の祭典、湯本町賑ふ。平驛の怪賊か内郷宮の鈴木貞造(三〇)取調べ (七日)一家三名の兵士を出し縣下三百二十四氏表彰。磐中の退學十一名。走破二百七十里關東産業視察自轉車隊歸る (八日)開花の花丸逃走失敗。平驛のトランク怪盜東京の家具店員加納庄治(二九)逮捕。久保町に空腹少年叶田五郎(一六) (九日)自慢の長十郎出廻る鎌田流燈會、近邊人の渦 (十日)郡聯合青年体育大會、陸上は内郷優勝、武道は豐間。入山對平商庭球戰に入山捷つ。平署の非常警戒平穩 (十二日)曾我直治氏の祖道宴。南町浪花亭の藤澤義夫(二二)通行の按摩を毆打平署に檢束。鐵道關係四十名各鑛山視察 (十三日)草野で四才の女兒列車を止む (十四日)健脳丸本舗の外交員平署刑事協會に金の戻つたお禮にと三十圓寄附 (十五日)インチキ露商北村龜吉(三三)檜玉に。飯野村新川某新川で溺兒を救ふ。松岡正男氏の滿洲事情講演會マルトモホールで盛況。大浦農倉の米穀共販 (十六日)赤井縣人會創立會長に瀨尾壽之進氏 (十七日)對水高の競泳大會に入山敗る。對古河柔道戰に平商伯仲時事の軟式野球第三回演三校戰に平遞友捷つ。第三校に長谷部將軍講演會福島で神宮豫戰に平商庭球捷つ (十八日)滿洲事變二周年各種催し。郡町村長支會で米價引上げ陳情書提出を決議。盜んだ品で商賣の罎桶屋田村生れの十四犯男松本卯之吉(三六)江名で捕る。中の作漁洪繼續陳情、鈴木代議士出縣・第一校劍道始業式

到底消化出來ず 大半は粕に製造

近海の鰯漁續く

去る三日頃から豐漁續きであつた小名濱近海に一兩日來再び鰯の大群來あり各濱では異常な活氣を見せて居る相場もこれが爲一足(百尾)五六錢の慘落振りであると、尚この豐漁に加工業者は一齊に活動を開始し味淋干し罐詰等にされて居るが此の大漁では到底此の種加工だけに消化し切れないので大半は粕に製造されるらしいと

第一兒童火防標語

第一校少年消防隊ではこの程全校兒童から火防宣傳の標語を募集したが締切は明二十日正午迄で優秀句に基きポスターを製作すると

。。。。。小學校行事一束

平三小學校の同學年研究會は今十九日第二校で尋四の綴方(渡邊訓導)を行つた尚今月末第三では教授參考書及一般圖書の調査を行ふと

。。。。。門松の皮切り

平局で今明中飾る

歳末いよ〳〵切迫したので平局では例年の通り門松のトップを切るべく今明日中に飾る筈である

歳末輸送協議

平驛貨物並に運送關係者の歳末輸送打合會は今十九日午後六時より丸通樓上で開くが意見並に問題は昨十八日迄に取纏められた

。。。。。神谷村座談會

青年團婦人會合同主催の下に昨十八日同村小學校で開催した

歳末の救濟募金

口數が殖え金は減る 助成會の活動成績

歳末貧困者同情週間に際し平助成會では既報の如く十五日から昨十八日迄各委員が戸別に訪問寄附金を募集した結果總額四百五十八圓四十錢を得昨年に比し八十一圓五十一錢の減であつたが口數に於ては約一割の增加で逐年同會の趣旨に贊同するものが多くなつたのを係員も非常に喜んで居る

委員連涙を絞る

調査によつて發見した街裏の哀な家庭

貧困者の中には次の樣な悲慘なのがあり委員をホロリとさせた

◇正月町佐藤永吉さん―は永らくの眼病で最近兩眼共失明した揚げ句多情の妻に捨てられ八十の坂を越えた病母と尋常三年の子供と共に三度の食事にも事を欠いて居る

◇大工町永山サダさん(五〇)―は昭和三年平町に流れ込み隣家の洗濯などをして辛ふじて生計をたてて居たが一昨冬から持病の喘息が重り最近では寢起きさへ不自由になり近所の人々に世話されてゐる

◇長橋町遠藤六藏さん(五四)―以上何れも假名は永らくの肺病で臥床中だつたが最近生後六ヶ月の乳のみ子を殘して妻に死なれ町役場の救護を受けて居る

。。。。。質屋組合寄附

平町質屋組合では昨十八日平助成會に金二十圓を寄附した

。。。。。私宅監置願ひ

湯本の色狂ひ佐藤長吉は平署留置場の近來迷惑な客として喧騷に不潔に係員を手古摺らして居るが今十九日は母ヨシが私宅監置を願ひ出たので近く引渡されると

。。鉋金

當時内郷村大字綴字堀坂大野村八莖生れ磐炭運炭夫藤澤一(三四)は一昨十七日午後五時半頃磐炭綴製作所から鉋金約五貫(價格十餘圓)を竊取し昨十八日平署に檢擧された

七十三件の盜みに 懲役七年の判決

常習丹野梅次郎服罪

當時住所不定無職江名町大字上神白字大澤二生れ前科六犯丹野梅次郎(三八)が鷄、魚類、自轉車等七十三件に亘り働いた竊盜は昨十八日午後二時より平區に於て求刑通り懲役七年を言渡され直ちに服罪した

鼠賊は一年

既報―双葉郡浪江町大字權現堂字鳥喰九十二前科一犯鈴木壽(三〇)は去る五日午後五時半頃字廣畑志賀醫院方前に置いてあつた字塚越材木商阿久津信平氏所有自轉車一輛(價格二十五圓)を竊取逃走六日同町佐川庄八郎に七圓で賣却した外木炭自轉車等四件の竊盜を働き昨十八日の公判で中島判事より求刑通り懲役一年の判決を言渡された

婦權擴張論は 先づ平の料理屋から

組合總會に險惡な空氣

平町料理屋組合は組合長鈴木寅次郎氏の辭任に伴ひ去る十五日總會を開いて後任組合長改選を協議したが、これに先立ち組合幹部は數回に亘つて會合し、組合長詮衡を行つたが人物難に陷り意見一致せず止むなく幹部の間に組合長制を廢し現在の金子福藏氏ほか六名の常任幹部の合議制として事務を處理してはとの意見が有力となり、組合員にはかつたところ組合員六十餘名は期せずしてこれに反對、遂に總會は何等決定する庭なく無期延期となつたしかして合議制を一蹴された幹部は目下對策協議中であるが、總會の開催見込み立たずまた同組合は營業の性質上組合の約半數は婦人であるに拘らず、少數の男子が役員を占有したことに組合費使途なども明かならぬものがあるとて組合間には漸く幹部に慊焉たるものを生じ來るべき總會には相當の紛糾を免れぬやうである

舊十一月四日 火曜 新十二月二十日 庚申 友引 成 箕宿

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白の人 いたろ矢も的を外れ易し常業に出精せば吉▲二黑の人 木の實は高く目に見れども手に取りがたし▲三碧の人 好機を逸せず適適すれば萬事もくわん徹すべし▲四綠の人 艱苦内外を窺ふ身心の動搖を防ぐが極肝要▲五黄の人 頼りなき運氣にて何事も差控へるが安全日▲六白の人 勞苦滯むとも屈せず辛棒專一に常業を勵め▲七赤の人 氣隨氣儘の所行は兎角敗北の憂き目を見ん▲八白の人 意外の不利を招くことありロ入れ事は注意▲九紫の人 幸運回り來りて志望漸次に達成す失物注意

廣告

平町田町 井坂醫院 電話五五九番

平町南町 大和田醫院 電話一七〇番

御正月用屠蘇具……
流行新時代家庭必需品超特賣
蒔繪附四ツ揃木箱附 金一圓九十錢 三組盃、盃台 銚子、足付盃
蒔繪附五ツ揃木箱入 金五圓四十錢ヨリ 四ツ揃大形ニ三重ね重箱
蒔繪附七ツ揃木箱入 拾圓也ヨリ 五ツ揃ヨリ大形ニ銘々皿、箸置附
正月用白木三寶特賣
四寸―十三錢 五寸―十八錢 六寸―二十五錢
七寸―三十四錢 八寸―四十三錢 九寸―五十五錢
㊀ 平町三丁目北裏通り 共榮漆器店 漆器專門卸賣

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
入院隨意 病室完備
醫學士 山内亨吉
山内醫院
電話六九一番

屋根材の大王(日の出 太陽印)便利瓦
耐久力優二十ヶ年以上
壹坪 葺上 八十錢内外
日本建築紙工株式會社 磐城代理店

銘木 ベニヤ板 天井板 建具材 内外木材
建築材料ノ御用命ハ是非當店へ。
(余)織田材木商店 平町字紺屋町四〇 電話四六〇番

耳鼻咽喉科專門 醫學士 鈴木正男 平町田町(電話五八番) 藤田女學校前
齒科口腔外科 日本齒科醫學士 鈴木喜政
「入院のお需めに應ず」
鈴木醫院 内郷村高坂磐炭病院前

安價で効果的な天然加里肥
最も適應する作物!!
蔬菜、馬鈴薯、里芋、しやうが類
◈茄果類ではトマト、茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
◇如何に施用しても土壌を惡變する虞は絕對にありません
一俵 參拾錢 (大量取引は特に割引致します)
製造販賣 金成國雅 平町鎌田 電話六八八

トラック
貨物自動車の御用命に應じます